

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の各項目をランダムに振り分けて各職員の主観で作成させた。概ねその内容を取り入れた。それを行ったことにより日々の業務を顧みる良い機会となっている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議などで必要なQ&Aが出来ていない為、委員の方々から有意義な意見を頂戴出来ていない。	○ その課題を取り上げる主旨を明確にして委員の方々からどのような助言を頂戴したいのか明確にする必要がある。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実地指導などを通して助言や指導をいただいている。又疑問に思ったり、質問をしたい事項がある時などその都度丁寧に助言や回答をいただいている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	それらの研修に管理者は参加している。	○ もし利用者又は家族から相談を受けた場合には地域包括支援センター等と連携して支援していく。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	それらの研修には積極的に職員に参加させている。身体虐待のみならず言葉の虐待にも注意を払っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居にあたっては家族又は利用者と十分に話し合い納得されたうえでやっている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当者を設けて苦情に対応する体制にある。又、利用者の悩み等に対して必要であれば家族も交えて話し合いの場を設けている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の健康状態、生活状況、お預かり金の出納状況等を記載して各家族に発送している。又、身体状況や精神状態に変化がみられた場合はその都度お知らせしている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの責任者が柔軟に対応しており必要であれば苦情処理責任者をまじえて今後の対応を協議している。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に設けていないが必要に応じて管理者が、その意見を汲み取って、運営者に伺いを立てている。運営者は必要に応じてその意見を概ね反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の受診介助や行事等のレクリエーション等がある場合、それに応じて随時職員の増員等を図り柔軟に対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者本意の考え方で人事異動に関しては必要最小限に留めている。	○	異動があったら速やかに紹介をするなどのコミュニケーション不足のないように努める必要がある。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを図るため外部研修には積極的に参加させている。特に認知症の理解を深める研修には積極的に参加させている。	○	上位の国家資格を取得する際の優遇措置を検討する必要がある。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地区認知症GH協議会などに加盟して研修会や交流会に参加してサービス向上に努めかつ多事業所と交流を深めている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	リフレッシュ休暇の一環として夏季特別休暇の付与や納涼会や忘年会を実施して職員のストレス解消につとめている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部への研修には積極的に参加させている。介護支援専門員などの上級試験を目指す職員には模擬試験受験には出勤扱いにするなど便宜をあたえている。研修受講を努力の評価としている。	○	永年勤務対策として、退職金制度の導入など福利厚生対策を検討する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた際には本人、家族と面接してよく話し合い本人、家族が充分納得したうえで入居の運びとしている。まずは本人、家族から希望等をじっくり傾聴し相互関係を密にとることが基本と考え実行している。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には担当ケアマネや医療機関と連携をとり総合的にその方のニーズを把握するよう努めている又、相談時には主観的とならないようにそれらの方々にも同席していただいて意見をもらっている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に職員間で話し合いその方の状態像を把握するよう努めている。又、認知症があるゆえのリスクを最小限に抑えるよう居室の配置などを含めて考えている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年月を重ねるごとにアクティビティーケアより身体介護が中心といえる。それでも職員は発語が困難な方からもできるだけ笑顔を引き出す努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活状況は細目に報告している。又、問題行動や不穏言動がみられた場合には随時報告と施設側の対応を説明したうえで家族からの意見を頂戴してトータルで利用者を支援している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	プライバシーに配慮しながら本人の生活歴や家族との関係を事前に把握したうえで個別に対応している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時には手紙のやりとりや電話のやりとりなどを支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	団体生活ゆえに時には利用者同士の意見の相違から軽微なトラブルになる時があり、互いの心のケアは個別に対応している。トラブルを未然に防ぐよう職員はさりげなく会話をしながら観察している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	アフターケアは重要であると考えている。必要時には退居後も専門性を生かした助言をさせて頂くこともある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活自立度にもよるが本人の意見は必ず聞き、また家族にも相談し出来る限り本人本位で行うようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら事前に本人、家族はもとより他関係機関等から情報を得て、その方の状態像を把握するようにしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	まずはその方の病歴、現疾患を把握することが大事と考える。慢性的か急性的かを把握することから体のケア、心のケアが始まると考える。その為、職員との情報の共有に心掛けている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題がクリアできないものもありゆえにその方のニーズを把握できないケースもある。	○ アセスメントをより密に行う必要がある。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定時の見直しはもとより随時見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各々のニーズにあった記録用紙を作成して日々の生活記録ならびにバイタルを記載している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ハード面において段差がなく歩道である為苑外活動が容易に出来、又環境面で景観が良好であり随時散歩や日光浴を行っている。又、同法人のデイサービスへ行事などがある時には参加して利用者の気分転換を図っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの協力により行事の手伝いや菜園、花壇づくり等インフォーマルなサービスは充実している。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用することは制度上不可能と思われる。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実質的なやり取りは訪問調査など制度上のものに限られる。	○	権利擁護の相談や総合相談などをうけた場合には地域包括支援センターに相談をして利用者、家族を支援する考えである。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院以外で他施設や自宅への退去は稀であるが、あった場合は口頭やサマリーなどで詳細にその方の情報を提供する考えである。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	気持ちを傷つけないよう十分な配慮をし、個人情報に関しては持ち出さない、口外しないと徹底している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が孤立しないよう定期的にケースカンファレンスを実施して、やや認知症の進行が著しい方や身体レベルが進んでいる方達でも笑顔が少しでも見られる支援をしている。	○	もっと個々のコミュニケーションをとり、自信を高めるような言葉かけや働きかけをしていきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日言動や表情にふれ、随時散歩に出掛けたり、その方の好きな話題をテーマにお話をしたりゲームしたりしている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その方の希望に応じて馴染みの店に出掛けたり、カット・パーマ染めなど訪問理美容を活用している。	○	日常の食事後の衣類への食べこぼしの付着や顔の清潔さにもっと気を配る必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者にとって楽しみの一つと考えながら日々提供している。力量に応じてアクティビティーケアを実践している。	○	庭先でバーベキューしたり気分転換を兼ねての機会をもう少し作りたい。
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的に個々の好みのもを提供するのは困難であるが概ねその方の好みを把握して喫茶の時間帯に提供している。飲酒や喫煙は認めていない。入居前に説明している。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意、便意が曖昧で失禁が多い方に対しては時間を決めてこまめにトイレの声掛けや誘導を行っている。トイレのサインを見逃さないようにしている。極力日中はオムツ類を使用せず布パンツを使用して個々のニーズに対応している。	○	今後も心地よい排泄を促す意味で極力オムツ類の使用は避ける。又、羞恥心やプライバシーに気を配り、特に失禁時は自尊心を傷つけないよう配慮する。
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週に2回の入浴以外にも本人の希望があれば随時入浴できるよう職員間で取り決めがあるが、希望する方は稀である。又、全介助を要する方も複数名いるため物理的に皆の希望に沿うのは困難といえる。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者本位の考えで特に時間の取り決めなどはなく、安楽に過ごしていただいている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	やや認知症の程度によって差があるといえる。自分の希望をうまく表現できる方に対してはおおむね支援できているといえるが、全員が満足するには至っていない。	○	職員が心に余裕を持って利用者と接し一人ひとりの声に耳を傾けていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金に関しては希望者以外はグループホームに預けさせて頂き管理させていただいている。紛失した場合のリスクを考慮して希望者以外は所持していない。	○	力量に応じて現金を所持して頂き、日常生活用品等は本人に支払いして頂くよう支援していきたい。
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り支援するようにしている。グループホーム周辺の環境が良いので、散歩等を通じて四季の移り変わりを楽しませている。	○	買い物や外食の機会をもう少し増やしていきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に外食やドライブ等に出掛けているが、体調を考慮するあまり毎年画一的となっている。	○	定期的に行っているものの一人ひとりの希望の場所、あるいは家族と共に外出するまでには至らず。今後は機会をつくり支援していきたい。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば随時支援している。又、希望や訴えをうまく表現できない方で帰宅願望や不穏言動が聞かれた時には必要に応じて家族等に電話や面会を促している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には居心地よく過ごして頂けるよう接遇には特に気を配っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる行為または抵触する行為を管理者は理解しており前例はないが著しく生命に危険がある場合を除き身体拘束は行わない考えである。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	定期的に訓練や勉強会を蜜に行う必要がある。
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	看取りを含めたグループホームの考え方を説明して同意を頂いている。又、一般状態に特変みられた時には電話等でその都度報告を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	慢性的に高、低血圧や発熱が頻回な方におかれては平常時でも2検～4検等としてバイタル測定を密に行っている。又、体調の変化には気をつけており、異変に気付いた時には速やかに情報を共有している。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の説明書をいつでも閲覧できるような場所に保管している。又、不明なところは看護師に質問して支持や助言を仰いでいる。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	認知症のレベルにもよるが決まった時間にトイレに行く習慣をつけている。適度な運動を取り入れ食物繊維の多い食品を摂取させ、水分等にも気をつけてヨーグルト等で腸内の環境を整えて消化の吸収を高めている。	○	牛乳は毎日摂取させる。リハビリ体操は毎日行っている。下剤の内服のみならず食事を意識し与えていきたい。
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている。力量に応じて見守りや介助をおこなっている。義歯は週1回ポリドントにて消毒している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みを把握しバランスを考慮して献立を作成している。水分量は必要に応じて記録し把握をして定時意外でも提供している。	○	バランスを考慮して献立を作成しているが、実際の総カロリーを考慮する必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員を含め全ての訪問者に居住空間に入る前に手指の消毒をしてもらい、インフルエンザの流行期にはマスクをして訪室し入居者、職員全員は予防注射を受けている。手指の消毒、毎夕の足浴等に努め感染予防に努めている。	○	手指の消毒はもちろん毎食事には手指の消毒、テーブル、膳、タオル、茶碗拭き、オシボリ等毎回消毒し乾燥して使用している。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	鮮度に欠けないように週2回食材購入し調理している。野菜は時々少し鮮度が落ちることあるので利用しないようにしている。	○	冷凍より出したものは使いきるようにし多く購入せず鮮度を第一に考え安全な食材を使用出来るように努めている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	苑庭に菜園や花壇を設け利用者の方々が草むしりをしたり、野菜の収穫等を楽しんでもらっている。又、各棟玄関口に花を植え家庭的な雰囲気作りをしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには十分なスペースが確保されている。又、トイレ等もプライバシーは保たれている。利用者が作品づくりを行いそれらを装飾している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ等設置しており各自自由に過ごしてもらっている。又、和室も設けており昼寝等出来るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者と家族の方が相談の上自由に使ってもらっている。家族の面会の多い方にはポータブル トイレ等日中居室に置かない工夫をしている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	換気は個人の体調に合わせてこまめに行っているが温度調整は出来ていない。寒さ対策より暑さ 対策が必要と思われる。	○	カーテン、日よけ等もう少し工夫出来ないか検 討中。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	歩行時に障害となるような物は置かないよ うに心掛けている。自立支援を促す意味で必要に応じて 食事テーブルの配置替えを行っている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	力量に応じて自立支援をうながしている。自立 支援を促すなかで失敗することもあり、自尊心を 損なわない声掛けが大事と考える。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよ うに活かしている	建物は比較的ゆとりのあるスペースがあるため 利用者が生活しやすいよう随時ソファや食事席 の配置替えをおこなっている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の進行に伴い日常生活自立度が著しく低下して意思疎通が困難になった方も複数名入居されているがそれでも職員はその方の尊厳を損なわずその人らしく生活できるよう支援している。看護師が常勤で従事しているため不測の事態にも対応ができその意味では手厚い介護を提供できていると自負している。